

6大学の学生が就業体験

佐渡の家庭に1週間ホームステイ

廃棄物収集、処理やし尿くみ取りなど

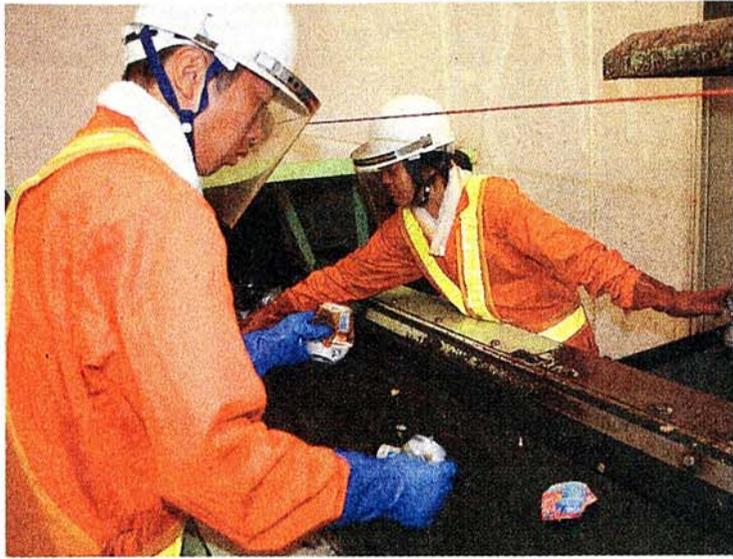
東京大学、岡山県の吉備国際大学など6大学の学生6人が佐渡市の家庭に1週間、ホームステイしながら、同市潟端の一般・産業廃棄物収集運搬・浄化槽保守点検会社「アイマーク環境」(村山由貴男社長)でインターンシップ(就業体験)を行っている。

実習内容は一般廃棄物収集、処理とし尿くみ取りの実務のほか、屋内では「なぜ働くか」についてをテーマにディスカッションし、環境分野での新規事業プランのコンテストなども予定している。

現場体験初日の5日、国際基督教大学教養学部3年、井瀬俊士さん(28)は「バキュームカーで細かい小路にホースを伸ばして、し尿のくみ取りをして、下水道が整備されていない地域があることに驚いた。家の人に『苦労をかけて申し訳ない』と声をかけられ、東京に無い地域の温かさを感じた」と話した。

社会人と学生やアルバイトの違いを知りたかったという横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程3年、鈴木あゆみさん(20)は一般ごみの集積場を50カ所回った。「今までごみは持って行ってもらって、当たり前と考えていた。環境が守られる陰に必ず責任を持つ人がいることを実感した」と話す。

今年7月、東京での環境フェアで、自社でのインターンシップを募集した村山社長(29)は将来、自社に就職を希望してくれそうな「困難を乗り越える精神力を感じた人を希望者30人の中から選んだ」と選考理由を述べた。すでに就職を希望する学生もいるという。



地域の家庭にホームステイしながら、資源ごみの分別をするインターンシップの大学生――佐渡市潟端のアイマーク環境で

【磯野保】